

水稻除草剤

バッチリ[®] 1キログラム剤

イマズスルフロン……………0.9%
 ピラクロニル……………2.0%
 プロモブチド……………9.0%

種類名/イマズスルフロン・ピラクロニル・
 プロモブチド粒剤
 農林水産省登録/第22148号
 毒性/普通物*
 有効年限/5年
 包装/1kg×12、10kg

特 長

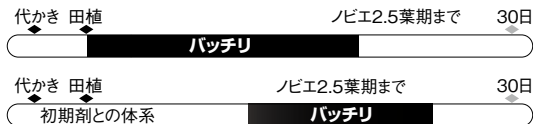
- ピラクロニルを含有し、ノビエ(2.5葉期)をはじめとして一年生雑草、多年生雑草まで幅広く高い効果を示します。
- SU抵抗性雑草にも高い効果を示します。
- 効果の発現が非常に速く、長期間持続します。
- 田植同時処理も可能です。
- 温度による効果の変動が少ない薬剤です。

適用雑草と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	総使用回数*	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1kg	本剤 1回 イマズスルフロン剤 2回 ピラクロニル剤 2回 プロモブチド剤 2回	田植同時 散布機で 施用
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで			
直播水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲出芽始期～ ノビエ2.5葉期 但し、収穫 90日前まで			

上手な使い方



- 通常(田植後7～15日)の使い方に加え、田植同時での省力防除が可能
- 初期剤との組み合わせで最大田植後30日まで使えます

■使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失わないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布するように注意してください。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは2葉期まで(ただし、直播水稻栽培は1葉期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期です。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には雑草の発生状況をよく観察し、時期を失わないように適期に散布するよう注意してください。
- 散布に当っては、水の出入りを止め湛水状態(水深3～5cm)で均一に散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機(無人ヘリコプター等)散布・滴下に関する注意」をご参照ください。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業および植え付けはていねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 著しい降雨が予想される場合には、除草効果が低下するおそれがあるので散布を控えてください。
- 空袋等は圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬害

- 軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田および砂質土で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 直播水稻栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意してください。
- いぐさ栽培予定の水田では使用しないでください。
- 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないでください。

■毒

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、食品と区別してなるべく低温で乾燥した場所に保管してください。